

武田さち子	2014/11/27 道徳教育の教科化反対声明 記者会見用	
自己紹介	<p>いじめ問題の解決をめざす NPO 法人ジェントルハートプロジェクトの理事で、武田さち子と申します。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p> <p>私たちの団体は理事8人中、5人がいじめ自死や指導死で我が子を亡くした親です。ただし、私自身は遺族ではありません。</p>	
自殺直後の学校の対応	<p>児童生徒の自殺事案が起きると、多くの学校では直後に全校生徒集会を開き、学校長が「命の大切さについて」話をします。学活や道徳の時間には、相田みつを氏の詩を使った「いのちのバトン」授業や病気で生きてくても生きられなかった子どもの話をして、子どもたちに感想文を書かせたりします。</p> <p>この対応こそが、きわめて道徳教科的だと私は思います。</p> <p>命の大切さについて話すのはけっして悪いことではありません。しかし、友だちが亡くなった直後、これらの話は子どもたちにどのような印象を与えるでしょうか？</p> <p>自殺した子どもは、命を粗末にした悪い見本であるかのように感じるでしょう。</p> <p>そこからは、亡くなった子どもがなぜ、死に追いつめられたのか、その苦しい気持ちを想像したり、自分にももっと何かできたのではないかという振り返りや、自分の言動が友だちを傷つけていたのではないか、死に追いつめてしまったのではないか、という反省は生まれません。</p> <p>大人が率先して、死者に鞭打つかたちにさえなってしまいます。</p> <p>私が道徳教科的というのは、その状況にあわせて深く考えることをせず、与えられた選択肢の中に正解があると信じ込んでしまうことです。それは、ひとを思考停止に陥らせてしまいます。</p>	
いじめについて考える時	<p>いじめ防止のために、いじめについて、あらゆる機会を通して考えることは、とても大切です。</p> <p>私たちは、全国の学校から呼ばれて話をさせていただいています。しかし、私たちは「命は大切です」とは話しません。</p> <p>代わりに、子どもを亡くした親の悲しむ姿、亡くなった子どもたちの姿を通して、人には心があるということ、目には見えなくとも他者の言動に深く傷つき、心が血を流すこともあるということ、ひとつの命がなくなるということは、こんなにも辛くて悲しいことなんだと、頭で理解するのではなく、心で感じてもらうことを大切にして</p>	

<p>いじめ事件と 道徳教育</p>	<p>います。</p> <p>では道徳教育と、どう違うのでしょうか？</p> <p>道徳を教科化するなかでは、何をどう考えるべきかの答えは決まってしまう。心で感じるのではなく、頭で考えることを子どもたちは要求されます。</p> <p>自分がどう感じたかではなく、どう答えれば先生は丸をくれるか、点数をくれるかを想像して答えを書きます。</p> <p>ますます児童生徒の本音と建て前が乖離し、上手に使い分けることを身につけさせてしまいます。</p> <p>結果、先生たちは、児童生徒らの模範的解答を読んで、このように素晴らしい子どもたちばかりなのだから、自分のクラスに、学校に、いじめが起きるはずがないと安心し、ますます目の前のいじめの発見が遅れます。</p> <p>実際に、いじめ自殺事件があった大津市の市立中学校が道徳教育のモデル校であったことはよく知られています。</p> <p>大津以外でも、2006年10月11日、福岡県筑前町で「いじめられて、もう生きていけない」などと遺書を残して亡くなった森啓祐君(当時、中学2年生13歳)の学校も、道徳教育に熱心でした。</p> <p>第三者委員会の報告書には、啓祐君が入学した「2005年(平成17年)度、当該学校は福岡県中学校道徳教育研究大会を実施し、「法教育」に関する実践研究の研究大会を実施するなど、県内でも高い評価を受けていた」とあります。</p> <p>建て前的な道徳教育は、現実のいじめ防止に役には立たず、むしろ、表面的なよい子を演じることを覚えさせる効果や、教職員がいじめに気づきにくい状況を生みだします。</p> <p>さらに言えば、筑前町の事件では、啓祐君の1年生時の担任が、生徒をイチゴの品種にたとえてランク付けしたり、啓祐君が友だちが落としたものを拾ってあげたところ、「偽善者にもなれない偽善者」と発言したことなどが、報道されました。</p> <p>道徳教科は担任教師が教えることが多いと思いますので、亡くなった啓祐君や同級生たちは、この担任から、道徳授業を受けていたのではないかと思います。</p> <p>大人の建て前と現実とのギャップは子どもたちに、反教育的な効果さえもたらすのではないのでしょうか。</p>	
------------------------	---	--

<p>道徳教科の マイナス点</p>	<p>そして、道徳教育で高い評価を受けている学校が、いじめや校内暴力の件数を正しく報告できるでしょうか。</p> <p>限りなくゼロに近づけたいと思うのではないのでしょうか。いじめを報告しないということは、いじめがあっても見て見ぬふりをするにつながります。なかったことにされているものに対して、誰も対応しません。</p> <p>結果、ますますいじめは深刻化するでしょう。</p> <p>いじめや子どもの自殺を、道徳教育推進の道具にすることは、戦争によって殺された人々を英雄として祀り上げ、再び戦争を起こす道具にすることと同じです。</p> <p>文科省統計で、1984年から2013年までの29年間にいじめ自殺としてカウントされたのは計79人ですが、私が報道等から拾った背景にいじめがあったのではとされている小・中・高校生の自殺は計253人です。平均して年に8人から9人もの子どもたちが、いじめを苦に自殺したことになります。</p> <p>亡くなった子どもたちは誰ひとりとして、道徳の教科化など望んでいないと思います。</p> <p>道徳の時間を増やしたり教科化するくらいなら、文科省自ら、「変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとする」と書いている総合的な学習の時間こそ、大事にしてほしいと思います。</p>	<p>文科省 小学生3人、中学生60人、高校生16人 報道調べ 小学生14人、中学生178人、高校生61人の</p>
------------------------	---	--